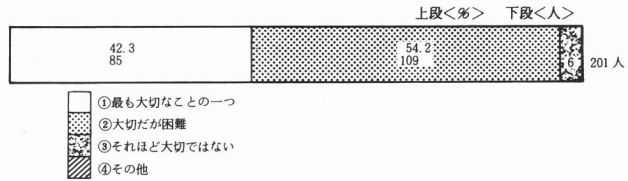


個の特性を生かす学年・学級経営

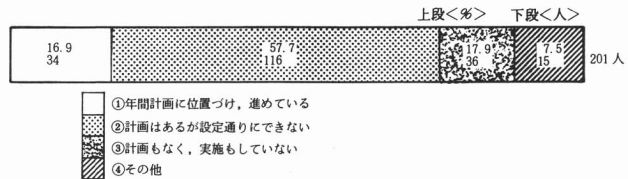
〈設問8〉 「学年・学級経営」と「個の特性を生かす」との関係についてどのように考えていますか。

全体傾向 (図3-6)

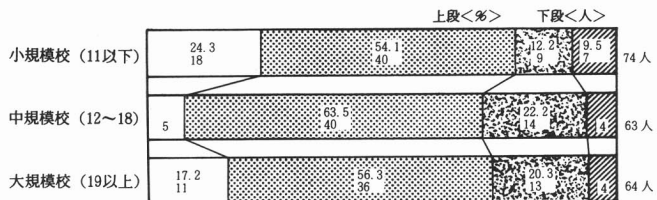


〈設問11〉 学年・学級経営を進める上で「個の特性を生かす場」を意図的・計画的に設定していますか。

全体傾向 (図3-7)



学校規模別傾向 (図3-8)



〈考察〉

全体傾向 (設問8)

図3-6からわかるように、個の特性を生かすことが大切であると考えている割合は①と②の合計で約97%と高いことから、考えとしては理解できるが、実際には困難であるという回答が多い。

全体傾向 (設問11)

図3-7からわかるように、①計画に位置づけて実施するの回答は約17%、③計画もなく、実施していないの回答が約18%あり、ほぼ同じ割合となっている。

②計画はあるが設定通りにはできないと考えている教師が約58%を占める。ここでも考えとしては理解できるが、実際には困難であるという姿がうかがえる。

学校規模別傾向 (設問11)

図3-8からみると、①では中規模校はわずかに

約10%で、小規模校と比較するとかなり少ないことがわかる。

このことから、中規模校の教師は小規模校や大規模校の教師よりも「個の特性」を設定することが困難であると考えていることがわかる。

問題点

- 学年・学級経営の中で「個の特性を生かす」ことが困難と考えている教師が多く、特に、中規模校の教師にその傾向が強い。

改善の方向

- 学年・学級経営の中で「個の特性を生かす」ことが困難と考えられる要因を探り、実施可能な計画を作成する必要がある。